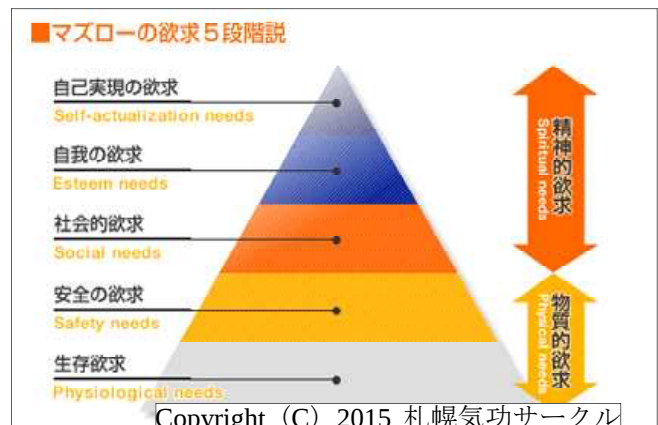


自己実現を目指して

職員室の机の前でN先生が達筆で「自己実現」と書いている。3年生の学年目標で、中学校生活の最終年、進路選択を控えている、自分の夢を実現させるという意味合いも含めて、自らを高めていこうという意味なのかなと、勝手に想像している。「自己実現」ということば自体は個人的には哲学的、倫理的なイメージだが、自分の目的や理想の実現のために努力し、それを達成するというようなことなら、3年生として、自分の生活にあてはめて頑張ってもらいたいと思う。

自己実現の「欲求」となれば、マズローの「欲求階層仮説」を思い起こす(右図)。教育心理学で勉強したときになるほどなあと妙に納得した。実際には「仮説」だし、誰も検証していない(できない)らしいのだが、最近では経営コンサルティングの分野でよく話題に登場しているようだ。ネットで検索すると、そういうサイトがいくつも出てくる。試しに読んでみたりしたが、何かを説明しようというときに都合良く使っているものもあるので、注意が必要だなと思った。



とはいえ、学校の様々な活動を考えると大いに参考になる。マズローによれば下位の欲求が満たされたとき、上位の欲求が出現するとしていて、生理的に満たす必要のある欲求抜きには、次の段階の安全への欲求も出現しない。危険を感じずに、安心してやっていけると実感できてはじめて、人を愛する、人に愛されたい、仲間とともにいたい、という欲求が姿を現わす。衣食住が足りて、愛や所属の欲求まで満たされれば、次になにごとかを成し遂げたいという自尊心やプライドを満足させたいと思うようになるというのである。図では、物質的欲求が満たされて精神的欲求が生まれると示しているが、ただ最上位の「自己実現」の欲求だけは別格。自我欲求まではいってみれば「欠乏欲求」だから、不足が満たされれば事足りる。自己実現だけは終わりのない、満たされ切ることのない欲求である。人はいつまでもこの自己実現を求めて生きていく、そんなところだろうか。



生徒たちの発達段階やおかれている環境は様々で、いじめがあれば「安全」の欲求を満たさねばならないし、新しい学級では「社会的欲求」つまり「所属」の欲求を満たしてあげる必要がある。その先に「自我」の欲求、つまり自尊感情やら承認欲求が生まれるということになる。ただ「やる気(＝自己実現)を出せ!」といわれて出るものではないのだから、その子に応じた下位の欲求を満たす術を考えるのが私たちの仕事である。子どもたちへの指導を考えると、この階層を頭に描いておくと、整理しやすいと思う。